

令和元年 8 月 2 日

智頭町議会議長 大河原 昭洋 様

智頭町議会議員 安道 泰治
國本 誠一
河村 仁志
高橋 達也
大藤 克紀
岩本富美男
谷口 雅人
岸本眞一郎
酒本 敏興
中野ゆかり
大河原昭洋

議員派遣結果報告書

令和元年 7 月 1 日に決定された議員派遣について、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和元年 7 月 1 6 日

2. 派遣場所

鳥取県鳥取市西品治 8 0 5 「産後ケア やわらかい風」

3. 内 容

智頭町育みの郷構想事業並びに智頭町産後ケア事業に係る現地視察

4. 目 的

智頭町育みの郷構想事業にも関連する、本町との業務委託契約の受託者である事業所を訪問し、現状及び課題等の聞き取りを行うことにより、今後の議会・議員活動に資する。

5. 概要等

(1) 「産後ケア やわらかい風」の主な事業内容

- ・乳児の一時預かり
- ・母乳外来
- ・助産師外来
- ・母子デイケア（日帰り4時間）、ショートステイ（宿泊型・1泊2食）
- ・赤ちゃん夜泣き保険 すやりんこ
- ・地域食堂（くるみ食堂・託児付き、カフェ桜居、しあわせ食堂）
- ・子ども食堂（みかん食堂・学習支援付き）
- ・いい風呂の日（乳児の沐浴サービス）
- ・マンマカフェ（妊婦教室）
- ・産前産後ヘルパー（家事代行）
- ・とっとり妊娠SOS（電話・メール・来所無料相談）※県からの受託事業

(2) 利用実績（開院（平成28年8月3日）～平成30年12月）

○有料

- ・乳児の一時預かり 273人
- ・母乳外来 129人
- ・助産師外来 77人
- ・母子デイケア（日帰り） 39人
- ・母子ショートステイ（宿泊型） 33人

○無料

- ・電話相談 247件
- ・メール相談 242件
- ・来所相談（10分以上対応したもの） 376件

6. 所感等

産後の女性はホルモンバランスの乱れや生活リズムの変化、慣れない育児などで身体の変調をきたすが、「子どもは地域の宝」と言いながら、核家族化の進行などにより頼れる人が身近になく、子育て中の母親が孤立しているという現状がある。

川口代表は、助産師として産科医院に勤めていたが、上記のような現状により退院後の母子が安心して過ごせているのかとても心配であったことや、行政サービスだけで個別のニーズに添うのは難しく、手の届かない所に応えたいとの思いから、施設を開院された。

困ったときに気軽に相談できる場所、心身ともに限界になる前に駆け込める場所がある、ということが母親の大きな安心に繋がっているということが伺え、社会資源としての必要性を改めて感じる事業であるが、運営面では代表の熱意があってこそ、ボランティアの性格が強いものだと感じた。

同様の施設が増加し充実していくためには、熱意のある人材とスタッフの確保が重要であり、行政の一層の支援拡充が課題である。

本町においては、祖父母と同居の家族が多く、母子の孤立とは無縁のように思われがちだが、産後の母親の負担等に目を向け、行政として支援する必要は大いにある。

やわらかい風には本町からの相談者や利用者もあるが、補助を活用しての利用はないとのことで、利用手続きの簡素化等も検討する必要があると感じた。

また、5年前に開始した「育みの郷構想」による「いのちね」への委託事業についても、町民に貢献できているのか今一度検証し、議会としても議論を深めていく必要がある。

以下、川口代表の発言で心に残ったこと。

- ・赤ちゃんが元気で生まれる数は、日本は世界一である。良いことの半面で当然という意識になりがちだが、お産は何があるかわからない。
- ・産後うつは、7人に1人。
- ・男性が子育てに係わることを社会が許さない現状がある。
- ・困った母親は、行政に相談に行かない。色々と聞かれるのが嫌で面倒。行政は利用者目線ではない。
- ・母子デイケアは、受け入れる自分も疲れる。つきっきりになり他のことができないため、今後は断るしかない時もあると思う。
- ・自分がやりたいことをしているので、儲けは抜きで、出来る範囲のことをする。
- ・約10人の協力者（助産師、看護師等）がいるが、人件費は出せていない。